

被災者を支える大切な支援です

義援金 全額を被災された皆さまにお届けします

お預かりした義援金は、被災地県に設置される配分委員会に送金され、同委員会で被害程度に応じて決定される配分基準に基づき、全額が被災者に直接届けられます。

日本赤十字社などの義援金受付団体では、手数料を一切いたしません。



【平成28年熊本地震災害義援金】

群馬県支部受付	1,562件	9,470万4,513円	(8/20現在)
(本社受付)	381,474件	250億3,516万9,605円	(8/19現在)
配分委員会送金額		242億8,670万1,599円	(8/25現在)

活動資金 救護活動・救援物資に

災害時の救護班派遣や救援物資の配布は皆さまからの寄付による活動資金によって成り立っています。

災害時に直ちに対応するため、日本赤十字社では災害を想定した訓練や救援物資などの備えを常時行っています。

【活動資金の主な使われ方】

- 災害時の救護活動とそのための備え（医療資機材や車両の購入）
- 救援物資（緊急セットや安眠セットなど）の備蓄
- 救急法や幼児安全法の講習
- 炊き出しなどのボランティア活動支援
- 青少年への防災教育
- 赤十字理念の普及
- 海外災害時の緊急救援活動、紛争地の医療支援、途上国への開発支援など



ご協力については群馬県支部までお問い合わせ下さい。TEL 027-254-3636

ぐんまの赤十字

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.

発行：日本赤十字社群馬県支部 〒371-0833 前橋市光が丘町32-10 電話 027-254-3636
URL http://gunmajrc.dsbsv.net/

第16号

平成28年9月1日

熊本地震災害

～苦しんでいる人を救いたい。
被災地の第一線で活動する赤十字～



日赤群馬県支部 第4班 救護班 出発式

平成28年4月14日(木)午後9時26分、熊本県で震度7(マグニチュード6.5)を観測する地震(前震)が発生しました。16日(土)午前1時25分には本震となる震度7(マグニチュード7.3)の地震が発生し、死者88名、家屋の損壊は16万棟を超える被害となり、避難者はピーク時で18万人にも上りました。(平成28年8月15日現在)

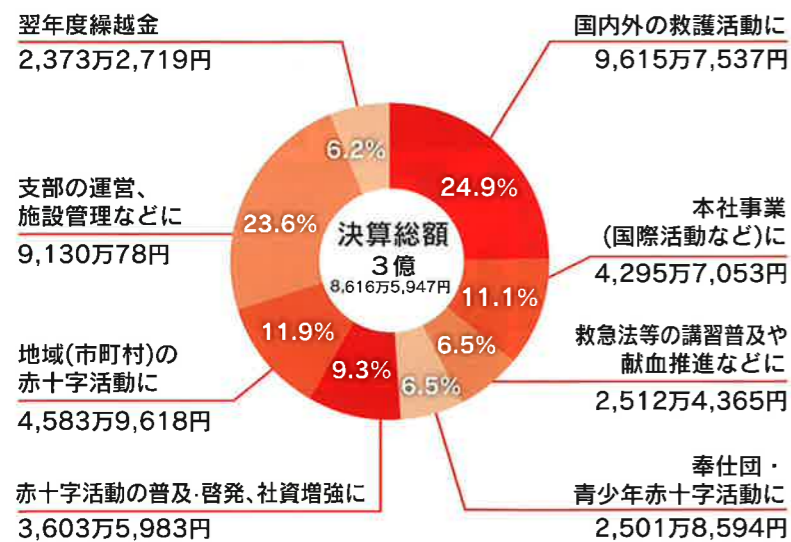
日本赤十字社では、発災直後に被災地へ救護班を派遣し、医療救護活動を開始したほか、救援物資の配布やこころのケアなど、現地の状況に応じた活動を行いました。

活動資金の使いみち

●平成27年度 歳出決算(事業報告)

皆さまからの温かい善意に支えられ、さまざまな赤十字の活動を展開させていただきました。

皆さまからのご支援に対して心からお礼申し上げます。



※赤十字病院、血液センターは施設ごとの特別会計になっており、この決算には含まれません。



日本赤十字社の主な活動



派遣した救護班等
208班

派遣した医療コーディネーターチーム
21チーム

熊本赤十字病院に派遣した医療支援要員
285人

派遣したこころのケア要員
149人

配布した毛布
22,480枚

配布した安眠セット
7,551枚

配布した緊急セット
654セット

配布したブルーシート
11,230枚

群馬県支部の救護活動



日本赤十字社群馬県支部は、4月16日本震発生当日に、被災地でのドクターヘリ運航調整業務を担う初動救護班(DMAT※)2班を派遣しました。その後も、熊本県阿蘇郡西原村で救護所診療や避難所の巡回診療を行う救護班を派遣したほか、災害医療コーディネイトチーム、こころのケアコーディネイトチームなど、7班 延べ42名を被災地に派遣しました。

また、熊本県支部災害対策本部及び熊本赤十字病院の支援活動などに4回 6名の職員を派遣しました。

※DMATとは…災害の急性期(概ね48時間以内)に活動できる機動性をもった、専門的な訓練を受けた災害派遣医療チーム

～すべては被災者のために～ 派遣レポート

第3班 災害医療コーディネイトチーム



中村光伸 医師(前橋赤十字病院 救急科)
我々が阿蘇地域に入ったときには、日赤の救護班だけでなく、複数の医療組織の救護班が活動していました。しかし、前震から1週間が経っていましたが、悪天候の影響もあり避難所の状況が十分に把握出来ていない状態でした。そのため、阿蘇地域での災害対応を効率的に行うことを目的に、阿蘇保健所長をリーダーとする災害保健医療復興連絡会議の設置を計画しサポートしました。「すべては被災者のために」「被災者のために今、何が出来るのか」を常に考えることが重要であると実感しました。

第6班 こころのケアコーディネイトチーム



荻原才子 看護師長(原町赤十字病院)
本震から3週間経過した頃でも、被災地の方々には不安や余震の恐怖に脅えていました。私達こころのケア班は、多大なストレスを抱え避難所や車中泊・テント泊を続けている人々に寄り添い、不安な気持ちや思いを表出してもらい受けとめてきました。また、被災者でもあり支援者の職員に対しても、ハンドマッサージを行いながら心労や緊張をときほぐしリフレッシュしてもらう場を設け、ひとときでも笑顔を見ることができ、こころのケアの重要性を実感しました。

第7班 救護班



星野晶子 医師(前橋赤十字病院 腎臓内科)
今回の任務は自ら志願しました。不安もありましたが、被災地のために自分ができることをやろうと決めました。
発災から4週間たち、だいぶ落ち着いてきていましたが、避難所では肺炎が流行り始めていました。咳が出ると受診したおばあちゃんが、家の状態を話し始めて泣き出してしまったことがあり、こころのケアも大切だなと思いました。受診したほとんどの方のカルテの住所欄に「全壊」と書かれていたことは忘れられません。

熊本県支部災害対策本部支援



山形和也 主事(群馬県支部)
救護班の派遣計画策定やその調整業務を行いました。自分は初めての災害派遣でしたが、次々と全国から救護班が現地入りする様子に、日赤の組織力を感じました。また、現地の青年赤十字奉仕団の方が、自分たちも被災され大変な状況の中、物資搬送やボランティアの受入業務の支援にあたってくださっている姿には本当に感銘を受けました。自分も被災された方々の力になりたいという気持ちをより一層高めるきっかけとなりました。

救護班等の派遣 【7班/42名】

No.	派遣期間	主な派遣先	所属	主な活動
第1班	4/16(土)~4/19(火)	国立病院機構災害医療センター	前橋赤十字病院3名	(DMAT) 全国のドクターヘリ運航管理活動
第2班	4/16(土)~4/18(月)	熊本県熊本市	前橋赤十字病院6名、支部1名	(DMAT) 熊本県に参集したドクターヘリの運航調整
第3班	4/20(水)~4/25(月)	日赤熊本県支部 阿蘇郡南阿蘇村	前橋赤十字病院3名	(災害医療コーディネイトチーム) 現地医療のコーディネイト(救護班、関係機関との調整等)
第4班	4/25(月)~4/29(金)	阿蘇郡西原村	前橋赤十字病院9名、支部1名	(救護班) 救護所診療、巡回診療
第5班	5/5(木)~5/9(月)	阿蘇郡西原村	原町赤十字病院7名、支部1名	(救護班) 救護所診療、巡回診療
第6班	5/9(月)~5/15(日)	日赤熊本県支部	原町赤十字病院2名	(こころのケアコーディネイトチーム) こころのケア班の活動管理、調整等
第7班	5/13(金)~5/17(火)	阿蘇郡西原村	前橋赤十字病院8名、支部1名	(救護班) 巡回診療

支援要員等の派遣 【4回/6名】

No.	派遣期間	主な派遣先	所属	主な活動
1	4/19(火)~4/26(火)	熊本赤十字病院	前橋赤十字病院1名	病院支援(救急外来での診療)
2	5/1(日)~5/5(木)	日赤熊本県支部	支部2名	熊本県支部災害対策本部支援
3	5/3(火)~5/9(月)	熊本赤十字病院	前橋赤十字病院2名	病院支援(一般病棟、救急外来での看護業務)
4	5/7(土)~5/13(金)	熊本赤十字病院	前橋赤十字病院1名	病院支援(救急外来での診療)

日赤の主な活動地域

